

The Culture

The things nurtured
by human interaction.



The Tsuru Story

其の
四

文化の章

人と人の
交わりの中で
育まれてきた
もの



文化の章 芭蕉が愛した風景

The Landscape that Basho Loved

「都留と芭蕉」

— Tsuru and Basho —

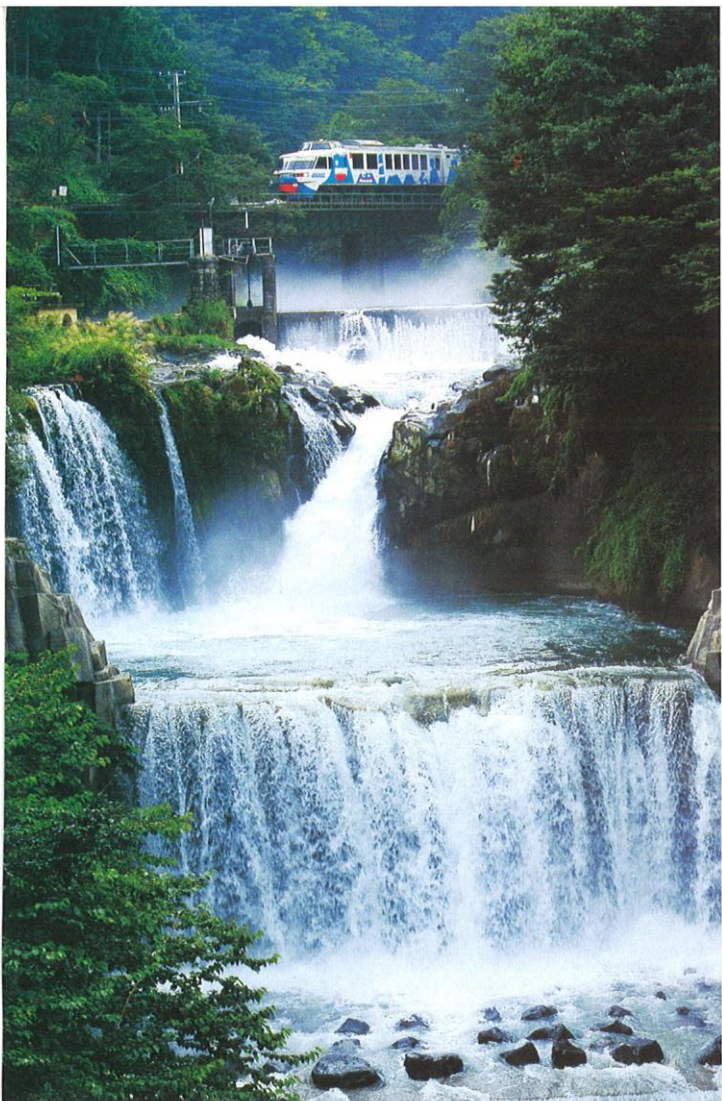
弟子を頼って、都留に滞在した芭蕉。

甲州谷村第三代城主秋元喬朝の国家老である高山傳右衛門繁文は、俳名を麁時といい、「奥の細道」で知られている松尾芭蕉の弟子でした。

天和二年（一六八二）十二月二十八日に起こった江戸の大火で、深川の芭蕉庵も炎に囲まれ、芭蕉は隅田川の潮にひたつて危うく難を逃れたといわれています。このとき、焼け出された芭蕉は、麁時のすすめで谷村に五カ月間、滞在したといわれています。二年後の貞享二年（一

六八五）四月にも、「野ざらし紀行」の帰りに木曾から甲州街道を経て、谷村の麁時宅に立ち寄り、四日間ほど滞在しました。

麁時と芭蕉の師弟愛を越えた心のつながりは、芭蕉の晩年まで続きました。元禄八年（一六九五）には三度目の谷村米峠を約束していましたが、元禄七年（一六九四）に故郷の伊賀へ旅立った芭蕉は、その帰路である大阪の地で、五十歳の生涯を閉じました。



田原の滝

TAKAYAMA Shigefumi was chief retainer to the third lord of Yamura Castle, AKIMOTO Takatomo. His pen name as a haiku poet was Biji, and he was a disciple of the poet MATSUO Basho, who is known for his collection of travel poems, Oku-no-hosomichi. After Basho was chased from his residence during a great flagration that broke out in Edo on December 28, 1682, he stayed at Yamura for five months at the invitation of Biji. Basho stayed at Biji's residence again for four days in April 1685 when returning along the Koshu Highway from Kiso after writing travel poems, Nozarashi Kiko. Biji and Basho were to remain in contact until the year when Basho passed away.

「芭蕉の足跡」

— In the Footsteps of Basho —

田原の滝には芭蕉の句碑が建てられています。

「勢ひあり 氷り消えては 瀧津魚」

火事で焼け出された芭蕉が谷村で滞在していたときに、田原の滝で詠んだ句です。また、都留文科大学の奥にある楽山公園には

「馬ほくぼく

吾を絵に見る 夏野かな」

の句碑があります。芭蕉が谷村滞在中に催された芭蕉、一晶、麁時との三吟歌仙の芭蕉の発句「夏馬の運行我を絵に見る心かな」から推敲を重ねて完成した句です。そのほかにも市内には二つの句碑があり、芭蕉が愛した谷村の風景が詠まれています。

「目にかかる

時や殊さら 五月富士」(宝鏡寺)

「松風の 落葉か水の 音涼し」

(東漸寺)



Basho casually composed some notable haiku, including one at the Tahara Waterfall, during his stay in Yamura after being chased from his home by fire. There is also a stone monument at Rakuyama Park, inside Tsuru University, and two other stone monuments within the city that have haiku carved into them expressing the Yamura landscape that Basho was so fond of.

「ふれあい全国俳句大会」

— National Haiku Competition —

松尾芭蕉ゆかりの地で開催されています。

芭蕉の里づくり事業の一環として、平成四年からふれあい全国俳句大会が開催されています。毎年全国各地から寄せられる応募作品は四千句にのぼり、会場は全国の俳句愛好者が集う人気イベントとなっています。

Tsuru City has strong associations with the haiku poet MATSUO Basho. As such, this haiku competition was established in 1992. Many people participate on the day of this popular event.



ふれあい全国俳句大会



芭蕉翁寓居 桃林軒

「芭蕉翁寓居」

「桃林軒」

— Basho's Temporary Residence - Torinken —

芭蕉が逗留した「桃林軒」が再建。

天和二年（一六八二）暮れに起きた江戸の大火で焼け出された芭蕉が五カ月間にわたって逗留した高山家の離れ「桃林軒」が、平成十六年に再建されました。

The annex of the Takayama family residence where Basho stayed for five months, known as "Torinken," was reconstructed in 2004.

交流は広がる

Increasing International and Domestic Exchange

海を越えて 広がる交流の輪

アメリカ合衆国 テネシー州

「ヘンダーソンビル市」

Hendersonville, Tennessee, USA

言葉や文化を越えて
新たな出会いが始まります。

人と人が集まり交われば
大きなふれあいの輪が広がります。
互いの文化や歴史、風土を感じ合い、
そして認め合う…。
新しい発見の中から相互理解や連帯の心が育っていきます。

都留市の姉妹都市であるヘンダーソンビル市は、テネシー州の首都ナッシュビルから車で北へ四十分ほどのところにあります。オールドヒッコリー湖という人造湖に面したまちで、温暖な気候と豊かな自然に恵まれたまちです。昭和五十四年と五十六年にヘンダーソンビル市からテネシー文化使節団が市を訪れたことをきっかけに、昭和五十八年に姉妹都市を締結しました。平成十五年に二十周年を迎え、平成十六年にはヘンダーソンビル市において二十周年記念式典が行われました。
現在も公式訪問団やちびっこ海外使節団の派遣をはじめ、国際姉妹校交流や市民レベルでの草の根交流などが行われています。

Hendersonville is located on Old Hickory Lake. The climate is warm and the area rich in natural surroundings. Members of a cultural delegation from Tennessee paid a visit to Tsuru City, and this led to the establishment of a sister-city relationship in 1983. The year 2003 marked the twentieth anniversary and a commemorative celebration was held in Hendersonville in 2004. Official visits continue to be made, overseas children's delegations are sent abroad, and international exchange continues to be fostered between sister schools as well as on a grassroots level.



交流会にて



都留音頭と武田節を披露



公式訪問団と友好の橋にて

互いの文化にふれあい 友情を育む

沖縄県

「西原町」

Nishihara Town

子どもたちの笑顔が
南の島に広がります。

昭和六十一年に開催されたかいじ国体をきっかけに交流が始まりました。夏休みを利用して市内の小中学生の代表が西原町を訪れ、互いのまちの歴史や文化に触れながら、友情と連帯の精神を養い、夢と希望、自信と勇気ある青少年の育成が図られています。

The 1986 Kaiji Kokutai national sports tournament sparked exchange with Nishihara Town. Primary and junior high school student representatives have visited Nishihara, and experiencing one another's town history and culture is developing friendships and helping to raise our youth to have hopes for the future, and to be confident and brave.



メッセージ交換



都留市の子どもたちによる伝統行事の披露



西原町の子どもたちによる伝統行事の披露

イベントやスポーツを 通じて広がる交流

東京都

「板橋区」

Itabashi Ward

都留の魅力を紹介しています。

昭和六十二年の板橋区民まつりに都留市の「大名行列」が参加したことをきっかけに、下赤塚地区を中心とした板橋区との交流が始まりました。現在は、家庭婦人バレーや子どもバレー、ゲートボール、サッカーなどのスポーツを通じた交流をはじめ、農業祭りに参加するなどの交流が行われています。

Exchange with Itabashi began when Tsuru City participated in the Itabashi Kumin Matsuri (City Festival) in 1987. Exchange presently takes place in the form of sports and other events.



ふるさとの味「おつけダンゴ(すいとん)」を紹介



板橋区農業祭